

こんにちは
ブレインテックです



トヨタ博物館は、トヨタ自動車株式会社の創立 50 周年記念事業の一環として計画され、1989（平成元）年に愛知県長久手市に開館しました。博物館は、19 世紀末から現在までの自動車の歴史を展示でたどる「クルマ館」と、図書室等のある「文化館」という 2 つの建物で構成されています。図書室の担当をされている学芸グループの小室様と、スタッフの大倉様、沼口様にお話を伺いました。



——文化館の3階、図書室の入口に立つと、奥まで見渡せる明るい閲覧室が目飛び込んできます。入口をはいってすぐ左手には、乗り物の絵本を集めた「のりもの・えほん・としよつ」（以下、絵本図書室）もあり、大人も子どもも心誘われますね。

図書室はもともと、クルマ館のエントランスの近くにありましたが、20年ほど前、この建物（文化館）ができたときにこの場所に移りました。以来、この絵本図書室や24時間温湿度管理を行う貴重資料室（非公開）を新設するなど、毎年改良を重ねて、段々と今の形になりました。図書室の入口も、初めての人でも入りやすいように、カーペットや照明器具、柱の色などを変えて明る

第 88 回

トヨタ博物館 図書室

2019年7月



い印象にしたり、当初入口付近にあったVTRコーナーを奥に移動し、代わりにカタログとソファや丸テーブルを置きブラウジングコーナーにしたりと工夫してきました。一度にはできないので、毎年少しずつです。

——奥の方はキャレルデスクもあり落ち着いた雰囲気、上手にゾーニングされているように見受けられます。

調べもので来室される方には常連さんも多く、こちらが黙っていても奥の閲覧席を目指して入ってこられます。初めての方はブラウジングコーナーで付近に置かれた自動車のカタログや自動車関連の漫画を手にとったり、絵本図書室に向かわれたりする方が多いですね。絵本図書室にはリピーターの親子連れもいらっしやいます。



博物館の展示は自動車の実物を展示したものが中心でやや大人向けかなと思うのですが、この場所があることで「小さな子ども連れでも博物館に来ていいんだ」というメッセージにもなっています。

——図書室の手前にはスタンプコーナーが設置されていました。博物館全体でスタンプラリーを実施しているのですね。

クルマ館と文化館の合わせて4か所でスタンプを押すとペーパークラフトがもらえます。このおかげで3階まで上がってきてくれる方が多くなりました。スタンプのある場所まで来ると図書室の入口が見える仕組みです。

——図書室までの導線もよく考えられているのですね。所蔵資料についても教えていただけますか。

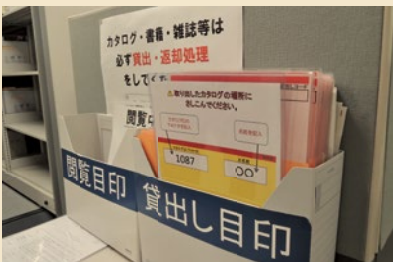
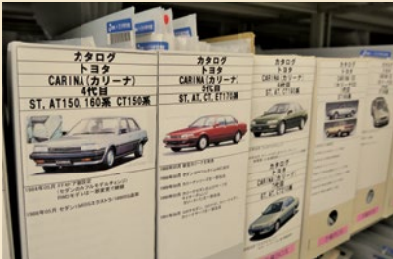
特徴的な所蔵資料は自動車のカタログです。ブラウジングコーナーに出ているのはごく一部で、ほとんどは奥の閉架書庫等に保管しています。閲覧サービスで提供しているのは主に1960年以降の国内の乗用車のカタログです。年代別、メーカー別に車の名前がリストになったものがありますので、そこから探すこともできますが、「何年の何のカタログ」と言ってもらえれば提供できるようになっています。閲覧を希望する場合は請求票に記入してカウンターに持ってきてもらいます。

——同じ車種でも種類が多く驚きます。似たようなものが多いので利用する方も管理する側も大変なのは？

カタログを見に来られる方は目的のものが決まっているので、あまり迷わないようです。また、最近のカタログは

メーカーごとにカタログナンバーが振られているものも多いので、管理面でもそれほど苦勞することはないですね。

——閉架書庫には、車種ごとにボックスに入れられたカタログがぎっしり! その量に圧倒されます。海外のものもけっこうありますね。



海外のメーカーのカタログも日本のものに負けないくらいたくさんあります。カタログは、1つのボックスに複数の年代のものが入っています。取り出すときは、代本板のようなシートを入れて、持ち出していることがわかるようにしています。また、特に時代が古く貴重なカタログについては貴重資料室に保管しているものもあります。

——貴重資料室には、他にどのようなものがあるのですか?

古い自動車雑誌や、日本の自動車史



研究の第一人者で当館と縁の深い五十嵐平達氏の旧蔵書「五十嵐文庫」などを置いています。洋雑誌の中でも、1895年創刊の「Autocar」(英)は現在も刊行されており、創刊号からずっと収集しているんですよ。

——今年の4月に、文化館の2階に自動車にまつわる文化資料を展示する「クルマ文化資料室」がオープンし話題になりました。



同じ展示でも、実物を展示するクルマ館とは違い、ポスター、プラモデルキット、ブリキのおもちゃ、自動車切手等々に加え、カタログ、書籍、雑誌等も常設展示しています。ここでは図書室の所蔵資料を使った展示が色々あり、例えば車の雑誌広告を展示したコーナーでは貴重資料室で保管している古い洋雑誌が活用されています。

——クルマ館の大きな車の展示に比べ、こちらの展示は小さなアイテムがたくさん並んでいて楽しいですね。車そのものよりこちらのほうが好きという人も多そうです。

このほか、文化館1階にはミュージアムカフェ CARS&BOOKSがあります。ここにはブックディレクターの幅允孝氏が選書したクルマ関連の本を置いています。私たち司書の選書とはまた違った面白いラインナップになっています。



——図書室で情報館を導入されたのは2017年ですね。

はい。以前は、独自システムを使っていましたから、データの項目や分類もカタログ向けに作ったもので、それが使いやすいのは当たり前。情報館を導入する際は、汎用的なシステムに変えてどれだけカタログの管理や利用がしやすくなるかというところを一番重要視していました。

——図書とカタログでそれぞれ別の独自分類が使われていますね。

カタログは、元の分類体系を情報館の分類記号に適したものに手直しし、車のモデルチェンジごとに新しい分類を追加できるようにしました。図書も、データ入力担当者が分類を付与しますが、迷うこともあります。結果として新しい資料を受け入れる際に昔の資料に付与した分類を直すこともあるのですが、情報館になってから一括修正の作業が楽になりました。データ一括置換はよく使っている機能の一つです。

——情報館の特長でもある柔軟な資料データ管理をうまく使いこなしていただいていますね。



その他にも学芸スタッフから「こういう資料はあるか」と聞かれたとき、さっと資料のリストを出力できるようになったのも有難いです。以前のシステムは、そういうところは弱かったのです。

——館全体で図書室の資料が活用され、展示を見た人の興味関心が図書室にも向かうように工夫されているのが素晴らしいですね。本日はありがとうございました。

トヨタ博物館図書室

〒480-1118

愛知県長久手市横道 41-100

TEL:0561-63-5151 (代表)

<https://www.toyota.co.jp/Museum/>